

特別支援教室のお便り

10月号

杉並区立高井戸第四小学校

特別支援教室拠点校

たかし教室直通03-5336-9522

今年の夏は猛暑の日が連日続き、残暑が厳しい日が毎日でした。いかがお過ごしでしょうか。

10月になりました。今年はまだ暑さが続く予報もありますが、秋本番を迎えようとしています。秋は「読書の秋」、「勉強の秋」、「スポーツの秋」、「芸術の秋」と言われ、学びの季節です。過ごしやすいこの時期に、何かにじっくり取り組む時間を作ってみてはいかがでしょうか。

個人面談と書類の提出、ご協力ありがとうございました

9月19日（火）から9月27日（水）まで個人面談が行われました。お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。ご家庭との情報共有を十分に行うことができました。お話し合いしたことを児童の今後の支援に生かしていきたいと思えます。

また、現小1～小5（各年度前期より利用開始）の対象の方には『特別支援教室の利用について』を、現小6で進学先の杉並区立中学校での4月からの指導継続の希望対象の方には『中学校特別支援教室の利用について』をご提出いただきました。ご協力ありがとうございました。

子どものやる気を引き出すには



子どものやる気を引き出すにはどうしたらよいのかを考えてみたいと思えます。子どもはやる気がなく、いつもあれしなさい、これしなさいと言われないと行動を起こさないことがあります。また、子どもが行動を起こしたとしても集中力が続かず、すぐに飽きてしまうこともよくあります。子どものやる気を引き出すための子どもへのアプローチの仕方にはどのような方法があるか紹介したいと思います。

① 学びやすい環境づくり

子どもがやる気を出すためには、物事に集中できる環境が必要です。勉強をするのであればゲームやスマートフォンなどが無い、勉強に集中できる環境が必要です。部屋の整理整頓を一緒にして手伝うのも良いように思います。

② 達成しやすい小さな目標設定から

最初から大きな目標を達成するために自分でその目標を設定しモチベーションを維持することは難しいです。子どもが理解でき、達成しやすい小さな目標設定から始める方が良いです。小さな目標の達成という成功体験の積み重ねが大きな目標設定につながると思います。

③ 叱らずに褒める

なかなかやる気の出さない子どもに対して、どうしても注意してしまいがちです。しかし、子どもを注意すると、子どものやる気を引き出すためには逆効果になってしまうこともあります。そのため、やらないことを叱るのではなく、できたことを褒めると良いです。

④ 失敗があってもよいことを教える

子どもは失敗することを恥ずかしがったり、嫌がったりします。しかし、それらを避けるとやる気を出して自分から行動できなくなります。子どもにはまず失敗してもよいということを教えて安心させる必要があります。また、失敗したときのサポートも大切です。失敗を恐れなくなることで、いろいろなことにやる気を出して挑戦してほしいです。

特別支援教室でも、上記のようなやる気を引き出すためのアプローチに心掛け、一人一人の児童を支援しています。子どもたちの気持ちに寄り添い、やる気を引き出すような活動の工夫、支援の仕方を日々考えています。子どもたちのできることを増やしていけるようにしたいと思います。

◎小集団学習「みんなの時間」

「自分の体を上手に使う運動」

- ・バランスを取りながら、体の使い方、力の入れ方、姿勢を自分で調整する。
- ・周りの人の様子を見て、自分の動き方を考える。
- ・ルールのある運動を楽しみながら、友達と関わる。



「光るどろだんご作りをしよう」

- ・説明をよく聞いて手順を理解する。
- ・力加減を調節する。
- ・最後まであきらめずに取り組む。

「オリジナルのかばんづくりをしよう」

- ・手先を器用に使い、集中して課題に取り組む。
- ・デザインを工夫し、素材の魅力をいかした作品制作を行い、自己表現をする。
- ・友達と交渉したり、交流したりし、コミュニケーションを楽しむ。

「相手の考えを予想しよう」

- ・友達の考えることを予想する。
- ・優先順位を考えてみよう。
- ・体幹を意識しいろいろな動きに挑戦する。

「協力して連想しよう」

- ・ルールを理解し、楽しく活動する。
- ・他者意識をもって活動に取り組み、コミュニケーションを図る。
- ・言葉から想像を広げる。

◎個別学習「じぶんの時間」 目標や活動の内容、その他

--